

# ADEO Report

## Post Test Club Project in Uganda



### Head Office

P.O. BOX 50144 Nairobi, KENYA  
Tel: +254-20-575561  
E-mail: adeo@wananchi.com

### 東京事務所

〒186-0002 東京都国立市東2-23-14  
Fax: 042-573-2501  
E-mail: info@adeojapan.org  
HP: <http://www.adeojapan.org/>  
blog: <http://adeojapan.exblog.jp/>

## 謝辞

こんにちは。アデオジャパンスタッフの佐藤剛と申します。2004年11月から5ヶ月間のウガンダ研修を終え、現在は研修で得たことを活かしてアデオジャパンで活動しています。2004年11月までに、ADEO Tシャツをご購入いただき、ありがとうございました。お蔭様で、Tシャツプロジェクトを通じ、104,000円の収益を得ることができました。遅らせながら、このレポートを通じて、収益の使途についてご報告させていただきたいと思っております。



ポストテストクラブのメンバーと提供された自転車

104,000円の収益のうち76,500円をアデオジャパンTシャツプロジェクト基金に寄付し、基金から70,000円をアデオ本部に送金させて頂きました。これらはすべて私の研修先(ウガンダ・モヨ県)の難民キャンプにおいて、HIV/AIDSの啓発活動に取り組むポストテストクラブ(Post Test Club)という地元のコミュニティーグループへ、自転車を寄付することに使わせていただきました。また6,500円は、基金にプールし、次回、送金させていただきます。収益のうち、残りの27,500円は、アデオジャパン事務局経費としてアデオジャパンの活動費に使わせて頂きました。このレポートでは、アデオ本部の活動、難民キャンプの状況、及び自転車の寄付に関してご報告させていただきます。

## アデオとは

アデオ(ADEO: African Development and Emergency Organisation)とはアフリカにおいて、医療・教育分野を中心に活動する非政府組織(NGO)です。ケニアの首都ナイロビに本部を置き、現在ケニア・ウガンダ・スーダン・シエラレオネの4カ国でプログラムを展開しています。ケニアでは住民に対してHIV/AIDS対策プログラムを実施し、ウガンダではUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のパートナーNGOとして北部難民居住区で診療所を中心とした医療サービスを提供しています。またスーダンでは、スーダン内戦和平合意に伴い、2005年4月から医療サービスをスタートさせ、シエラレオネではリベリア難民を対象とした教育プログラムを実施しています。今回、私佐藤剛はアデオのウガンダ・モヨオフィス(モヨ:ウガンダ北部、スーダン国境の県)において2004年11月から5ヶ月間の研修を行ってきました。



# スーダン難民とウガンダについて

ウガンダの北部に位置するスーダンでは、1956年の独立以来、＜イスラム教・アラブ系の北部住民＞と＜キリスト教・黒人の南部住民＞の間で内戦が続き、その間多くの南部住民がウガンダやケニアなどの近隣諸国に避難しました。約50年を経た2005年1月、ようやく和平合意に至ったものの、スーダン南部は荒廃、飢えなど生活に支障をきたす混乱状態が続き、すぐにスーダンへ帰還することができませんでした。2005年になりようやく、UNHCRにより難民の帰還が徐々に行われはじめています。



難民キャンプの日常の風景。たいがいのキャンプには自転車の修理工がいる。



新たに難民キャンプに避難してきたスーダン難民の登録の様子。戦争でなく、飢えによって今でも難民が流入してきている。難民の二重登録を防ぐために、登録作業は世帯ごとの口答面接によって行なわれる。



登録後、自立して新たな生活を送れるように、毛布や料理器具、石鹸、ビニールシートなどの日用品がUNHCRから配布される。

難民受入国の最も重要な仕事は土地の提供です。多くの難民への居住区確保と難民の定住化に伴う環境資源の減少(薪燃料確保のための森林伐採)は受入国にとって大きな負担です。しかしながら、ウガンダ政府による難民政策は寛容で(たとえば、従来ならば制限される「移動の自由」はウガンダにおいて認められています。但し、遠方外出の際は申請が必要です)、難民も極力国民同様に扱おうという姿勢が読み取れます。難民は最初の五年まで援助が受けられますが、それ以後は与えられた農区で農業をしたり、他の仕事をするなどして、自立することが求められます。

1951年の「難民の地位に関する条約(通称:難民条約)」の定義によると、難民とは「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国に在ると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人」です。難民条約は国と国の間で締結される国際法であり、ウガンダは1976年に批准しています。難民条約を批准している国は、条約の規定に従い難民の保護などを行なう義務があります。そのためウガンダはコンゴ民主共和国・エリトリア・ルワンダ・スーダンなど多くの周辺諸国から難民およそ250,000人を受け入れていて、その大部分はスーダン難民(キリスト教系黒人)となっています。

モヨ県には30,000人強の難民が在住しています。いまだに新たな難民が避難してくる一方で、なかには20年以上ウガンダに居住している人や、ウガンダで生まれ育った人も数多くいます。このような難民に対する保護は、得てしてUNHCRばかりが活動の主体として注目されるものの、難民受入国も非常に重要な役割を果たしています。



大型のローリーで登録所から自分達のキャンプへと輸送される難民達と佐藤剛。



一人で避難してきたマルコ。登録所から移り自分の新居を割り振られた時の写真。

## アデオ・モヨの活動

難民は、食料や教育、保健医療などのサービスをUNHCRから受けます。これらのサービスはUNHCRが直接実施するのではなく、NGOが代行する仕組みになっています(ここではNGOをImplementing Partnerと呼びます)。アデオ・モヨオフィスでは、モヨ県における難民に対して保健医療を提供しています。難民キャンプにおける7つの診療所運営を中軸として、若者を対象としたプロジェクト、Global Fundプロジェクト、HIV/AIDSプロジェクト、難民の栄養摂取率調査、子供の栄養失調改善プロジェクト、ラジオを通じた医療知識普及プロジェクトなどを行なっています。またアデオは、地元住民に対しても、難民に対してと同様に医療サービスを提供しています。



アデオが運営する診療所。



VCT(HIVテスト)前のカウンセリング。

難民キャンプは、モヨ県の中で県都から離れた場所に位置しています(県都より車で45分程度)。アデオオフィスは2004年春に県都から難民キャンプ内に拠点を移し、より難民に近いところで活動を展開しています。現在、メインオフィスで20名、診療所で60名ほどのスタッフが活動しています。

## 自転車の寄付

私は、ウガンダにおいて主としてリプロダクティブヘルスオフィサーとして活動していました。リプロダクティブヘルスとは「性と生殖に関する医療」と日本語で訳され、家族計画や妊娠、出産、性感染症などを扱います。その中には、当然HIV/AIDSも含まれます。

今回、アデオ本部に送金した70,000円は、スーダン難民とウガンダ国民によって構成されるポストテストクラブという地元のコミュニティグループに対し、自転車を寄付することに使わせていただきました。ポストテストクラブは、HIVテストを受けた人による有志団体で、下は15歳から、上は45歳くらいまでと幅広い年齢層で構成されるコミュニティグループです。ポストテストクラブには、20名を超えるメンバーが難民キャンプの様々な地区から参加し、地元住民(スーダン難民・ウガンダ国民)に対してHIV/AIDSの予防啓発を行なっています。特に、歌や劇を通じた啓発が中心的な活動となっています。



HIV/AIDSが家庭に与える影響を描いたポストテストクラブの劇の様子。

HIV/AIDS蔓延の大きな原因の一つとして、潜伏期間が長く、症状がすぐに現れないことが挙げられます。というのも、HIVに感染していても、症状が現れないため感染に気付かず、他の人を感染させてしまうことがあるからです。こうした循環を防ぐためには、まずテストを受けて、自分のステータスを知ることが重要です。HIVテストはVCT(Voluntary Counseling and Testing: 自発的カウンセリングと検査)と言われるように、HIV検査前後でカウンセリングを設けています。しかしながら、こうしたVCTも、アデオが運営する七つの診療所の中で最も大きい診療所だけが常時行なっている状況で、これではその診療所の周辺住民しかテストを受けられません。そこで、二ヶ月に一度ほどの頻度で、検査官とカウンセラーから編成されたVCTチームが他の診療所に出張テストを行なうことになっています(VCT Outreachといいます)。

またモヨ県の難民キャンプ地域には、地元住民を合わせて55,000人強が居住しており(内、およそ半数が子供)、これまで2300件のテストが実施され、およそ50件の陽性患者が報告されています。しかしながら、偏見などが存在するためかテスト件数は成人人口に比べて十分とはいえず、今後も継続的に人々の意識を啓発しテスト件数を伸ばしていく必要があるといえます。



ポストテストクラブは、VCTチームの出張検査に同行し、HIVが家庭に与える影響などをテーマとした劇を周辺住民に向けて行なっています。また、前日に出張テストや劇についての告知を行ないます。人々を劇に動員し、そこでVCTの重要性を訴え、人々をテストへ向かわせる役目を果たします。



VCT Outreachに同行した時の劇の様子。

ポストテストクラブは、HIV/AIDSという問題を住民自らの問題として解決していくという姿勢をとっています。こうした姿勢は非常に有意義である一方、様々な問題も抱えています。たとえば、ボランティア活動故にモチベーションを維持するのが難しい、自分達の活動成果を客観的に評価する術をもたない、予防啓発活動の頻度が少ない、アデオスタッフに依存した形での活動の企画・実施、などが挙げられ、まだまだ未成熟な組織だという印象をうけます。

ポストテストクラブの成長を特に阻害している要因として、アデオへの過度な依存体質があげられます。なかでも、広大な難民キャンプ(端から端まで車でおよそ1時間)に点在するメンバーが一箇所に集合して活動する際に、アデオから輸送手段を提供してもらわなければならないことは、ポストテストクラブの活動の活性化において大きな障害となっていました(難民キャンプに交通機関などはなく、人々は炎天下を歩かなくてはなりません)。そこで私は、Tシャツプロジェクト基金よりアデオ本部に送金した70,000円を活用して、難民キャンプで非常に重要な交通手段となる自転車を寄付させていただくことと致しました。



ポストテストクラブに提供された自転車。

使途内訳は、次の通りです。①自転車10台:ウガンダでは工業が発展しておらず自転車の供給も輸入に頼っているため、その価格が高く、メンバー全員分の自転車を確保できていませんでした。それ故、アデオジャパンは自転車をメンバー数に応じて各地区に配分しました。②ペイント代:アデオからポストテストクラブに寄付されたということを明確にするため、地元業者に依頼して“Donated by ADEO to Post Test Club”とペイントしてもらいました。③初期整備費:自転車は最初から完全な状態では売られておらず、購入後にボルトを締めたり、タイヤを付け直したりするなど大々的な初期整備が必要でした。④今後の管理費:今回購入したインド産の自転車は、必ずしも良質であるとは言えず、今後自転車が壊れたときのために修理費を確保しておく必要がありました。そこで、購入経費の一部を修理費として確保し、その修理費が尽きた後はポストテストクラブが責任を持つという約束を交わしました。

自転車の寄付後、ポストテストクラブは早速とある地区の啓発活動(Community Sensitization)を行ないました。アデオに頼ることなく、自転車を使ってメンバーが集まり、自分達で人々を動員して、HIV/AIDSとは何かといったレクチャーをしたり、コミュニティー内部に介在する偏見撤廃やVCTの重要性を訴えたり、コンドーム装着のデモンストレーションをうなど独自のプログラムを展開しました。今まで啓発活動が行なわれてこなかった地域にこのような活動を拡大していくことで、さらにVCTの利用率が増え、HIV/AIDSの感染拡大防止の一端を担うことが期待されます。



Community Sensitizationの様子



アデオからの自転車に乗って移動するポストテストクラブのメンバー。

自転車を寄付するにあたり、自転車の配分方法の調整に関し最も苦労しました。通常は、1人につき1台を提供することで、各人がその後の修理や管理などの責任を負うというシンプルな方法をとります。しかしながら、自転車の値段が予想以上に高く、今回はメンバー全員に提供できなかったため、分配方法の調整が必要とされました。最終的にはポストテストクラブという「組織」が自転車の責任を負うということで合意に達し、なんとか調整することができたものの、上述の通り、クラブはまだまだ組織として発展途上です。従って、批判を恐れずに言うならば、今後自転車の管理がおろそかになる可能性は少なからずあるといえます。しかしながら、このような責任を負うことは、組織が自ら成長するための糧になるだろうと熟慮した結果、自転車を寄付することに致しました。

以上で、アデオジャパンのTシャツプロジェクト及びアデオ本部における自転車の寄付に関する活動報告とさせていただきます。ご指摘やご質問などございましたらメールにて受け付けさせていただきます。皆様のご期待に沿うようなプロジェクトが出来たのならば幸いです。ご協力誠にありがとうございました。(文責:佐藤 剛)

【Tシャツプロジェクト会計】

| Tシャツプロジェクト収入            | 単価(円) | 枚数(枚) | 合計(円)   |
|-------------------------|-------|-------|---------|
| (A) Tシャツ一般販売            | 2,000 | 37    | 74,000  |
| (B) 特別割引販売              | 1,500 | 18    | 27,000  |
| (C) ボランティアスタッフへの割引販売    | 1,500 | 2     | 3,000   |
| (D) =(A)+(B)+(C)        |       | 収入合計  | 104,000 |
| Tシャツプロジェクト支出            |       |       |         |
| (E) アデオジャパン事務局経費        | 500   | 55    | 27,500  |
| (F) アデオジャパンTシャツプロジェクト基金 |       |       | 76,500  |
| (G) =(E)+(F)            |       | 支出合計  | 104,000 |

\*アデオ本部へTシャツプロジェクト基金から70,000円送金(6,500円は基金にプール)。

【アデオ本部における自転車の寄付に関する会計】

| 収入                   | 単価(Ushs) | 個数   | 合計(Ushs)  |
|----------------------|----------|------|-----------|
| Tシャツプロジェクト基金         |          |      | 1,141,588 |
|                      |          | 収入合計 | 1,141,588 |
| 支出                   |          |      |           |
| (A) 自転車購入費           | 99,000   | 10   | 990,000   |
| (B) ペイン代             | 6,000    | 10   | 60,000    |
| (C) 整備費・管理費          | 10,000   | 10   | 100,000   |
| (D) 雑費               |          |      | 1,588     |
| (E) =(A)+(B)+(C)+(D) |          | 支出合計 | 1,141,588 |

\*Tシャツプロジェクト基金は、US\$1=¥107=Ushs1,745(2004年11月当時)として換算(UshsはUganda Shilingsのこと)。

## アデオジャパンの活動

アデオジャパンは、アフリカの4カ国(ケニア・ウガンダ・シエラレオネ・スーダン)でJNHCRや各国政府のImplementing Partnerとして難民や各国国民に保健医療や教育を提供する、ADEO(African Development and Emergency Organisation)の日本事務局として2003年10月に設立されました。アフリカオフィスでインターンを経験した日本人学生が中心となり、設立当初は、研修生派遣事業・アフリカオフィス支援事業を中心に活動を始めました。その後、2004年からは、日本国内でのHIV/AIDS予防啓発活動を始動させ、人々へのアフリカ理解とHIV/AIDSに対する意識喚起と行動変容の促進を図っております。

【主な事業】

- ・ アフリカオフィスへの学生インターンの派遣事業
- ・ アフリカとの相互理解促進事業
- ・ アフリカオフィス支援事業
- ・ 若者を対象としたHIV/AIDS予防啓発事業
- ・ HIV/AIDSの社会的認知向上事業
- ・ ユース団体を含めた関連団体との連携事業
- ・ 上記事業に関する政策提言



African Festaでの恋愛シミュレーションの実施



YDP Japan 2006(左:実行委員会、右:当日の分科会)



ICCAPにおける恋愛シミュレーションの実演

